



## 宗教改革と現代 改革者たちの500年とこれから 新教出版社編集部編

【新教コイノニア34】

9月14日発売

### 【目次より】

#### 第1章 義とは何か

芳賀力、竹原創一、吉田忍、池田裕、  
吉谷かおる、鳥しづ子、林巖雄

#### 第2章 信徒と教職

江藤直純、村山盛葦、有村浩一、川向肇、  
袴田康裕、山森みか、李恩子

#### 第3章 サクラメント

藤井創、鈴木浩、具正謨、原敬子、  
松島雄一、中野泰治

#### 第4章 結婚の変容

村上みか、小田部進一、菊地純子、  
澤村雅史、水野宏、桑野萌、堀江有里

#### 第5章 正統と異端

永本哲也、木ノ脇悦郎、筒井賢治、  
小林繁子、朝香知己、渡辺英俊

#### 第6章 世界史の中で

野々瀬浩司、伊勢田奈緒、蝶野立彦、  
西川杉子、クラウス・コシヨルケ、  
山本俊正、深井智朗

### 好評の関連書

#### 宗教改革史

ベイントン著／出村彰訳  
第一人者が書き下ろした通史の名著が新版として復活。 本体2800円

#### キリスト教史

ゴンサレス著／石田学・岩橋常久訳  
上巻 初代教会から宗教改革の夜明けまで 本体5700円

月刊誌『福音と世界』は「宗教改革500年」を機に  
義認論や万人祭司主義から宗教改革の世界史的意義に  
いたる6つのテーマを設けて、1月号から6月号まで  
連続特集を組み、大きな反響を呼んだ。本書はそれら  
の論考を一書にまとめたものである。なお単行本化に  
あたり、芳賀力、堀江有里、小林繁子、山本俊正の4  
氏から新たな寄稿を得た。  
はたして宗教改革は何を変えたのか。私たちは何を継  
承すべきなのか。40名の論者たちと共に考えたい。

◆ A5判・320頁・本体2200円

# クリスマス・ブツク

マルティン・ルター著／R・ベイントン編／中村妙子訳

ルターが残した膨大な説教から、キリストの降誕に関する7編を、宗教改革史研究の碩学が精選。またルターが作詞したクリスマス賛美歌2編を付す。シヨンガウアー、デューラー、アルトドルファーら同時代の画家の木版画と共に味わう、改革者の信仰の真髄。

◆B5変型判・102頁・本体1700円

〔既刊〕

イースター・ブツク ルター著／ベイントン編 ◆本体1800円

# もう一人の博士

ヘンリ・ヴァン・ダイク著／岡田尚訳／佐藤努画

「アルタバン物語」としても知られクリスマス劇で親しまれている傑作中の傑作「もう一人の博士」。並録するのは、ポニファティウスがドイツ伝道のおり、世界で初めてクリスマスツリーを立てたという伝説を美しく記す「最初のクリスマス・ツリー」。

◆B5変型判・103頁・本体1500円

●待望のオンデマンド復刊

## 山谷省吾著／中野実解説 新約聖書解題

「本書を凌駕する書物は本邦においては、未だ出ていないと言わざるを得ない」と1984年版の解説で松永希久夫氏に言わしめた新約緒論の名著。このほど中野実氏（東京神学大学教授）による新たな解説を付して待望のオンデマンド復刊。

オンデマンドブックの既刊

◆A5判・411頁・本体5500円

山谷省吾著 **基督教の起源**

◆A5判・740頁・本体6800円

## マリリン・ロビンソン／宇野元記 ギレアド

2005年にピューリッツァー賞と全米批評家賞を受賞した小説。ギレアドという片田舎の町で、自らの死期を意識する老牧師が、再婚した妻との間にもうけた幼い息子に宛てた手紙の中で、南北戦争以来三代にわたる牧師父子の信仰のあり方や、隣人たちの人生を、様々なエピソードを交えながら、静かな語りをおして振り返る。

◆四六判・予価4000円

一色哲著

## 南島キリスト教史入門

(仮題)

琉球王国の最大版図とほぼ重なる「南島」のキリスト教は、日本のキリスト教に従属しない独自の深さと広がりを持つ。なぜ南島には多くの教会が建てられ、現在でも多くの人の信仰を集めているのか。その歴史を丹念な調査と重層的な視点から追究した力作。

◆四六変判・予価2300円

ヨアヒム・エレミアス著／南條俊一訳

## イエスの譬え話の再発見

(仮題)

譬え話をイエスが語った一番元の形に立ち返らせ、イエス自身が譬え話で何を伝えたかったのかを明らかにすべくパレスチナの環境の中で解釈しようとした金字塔の名著『イエスの譬え話』。同書をより分かりやすく英語圏で紹介したいとの著者の願いから生まれた英語版を底本とする。

◆四六判・予価3500円

佐竹明著

## 第二コリント書 8—9章

現代新約注解全書

10—13章は来年予定。

◆A5判・予価8000円

### ● 8月に出た本と雑誌

## キリスト教思想史Ⅱ

アウグスティヌスから宗教改革前夜まで

フスト・ゴンサレス著／石田学訳



著者が思想史家としての本領を発揮した名著。この巻では、中世思想のダイナミズムを重層的な視点から叙述。中世ははたして夜明けか黄昏か。全3巻。

◆A5判・本体5000円

## ジョン・マクマレー研究

キリスト教と政治・社会・宗教

宮平望著



マクマレーはスコットランド出身のキリスト教哲学者。独自の共同体思想を形成。またブレア前英国首相に影響を与えた思想家としても注目されている。日本人の手になる初の本格研究。

◆A5判・本体2400円

## 福音と世界

◆税込635円

9月号 特集 沖繩——過去・現在・未来

寄稿者：森宣雄、一色哲、金井創、山城紀子、浜邦彦／リチャード・ボウカム、高井ハラー由紀、栗原康、芦名定道、吉松純、内田樹、月本昭男、辻学、佐藤優、望月麻生

●ヒップホップアーティストStingとHungerの共演曲に「革命はテレビには映らない」があります。メディアを鵜呑みにせず、真実を自分の目で確かめて行動せよと呼びかける、こんな歌詞の曲です。「革命は電通と博報堂によるキャンペーンとTEPCOの提供では報道されない徹子の部屋にゲストで呼ばれてもトークもしない……革命はテレビでは受信できない革命はテレビには映らない」。

●2017年は、ルターの贖罪状批判から500年の、宗教改革のメモリアルの年だといわれます。たしかに、ルターやカルヴァンの名は宗教改革を語るうえで外すことができません。しかし歴史をひもとくと、じつさいに改革のうねりを生み出し波及させたのは、書物に名を残す英雄的な改革者だけでなく、無数の名もなき改革者たちでもあったことがわかります。今月刊行の『宗教改革と現代——改革者たちの500年とこれから』は、この改革者たちの働きに焦点を当てつつ、そのころざしを現代に引き継ごうという関心に貫かれた論文集です。先人たちに学び、わたしたちも新たな改革者として、いまこの時代になすべきことをなすべく歩みだしたいものです。最初はみずからの非力や孤独さを感じても、やがて

きつと、同じ思いをもって歩む仲間と出会えるでしょう。「ポケットからひそかに蒔いた種 失われた10年とやらで力つけて育てて群生そこらじゃコミュニティが1つになって自力をつけてるそれはテレビには映らない」。(堀)

●今夏スイスのイランツという小さな町を訪ねる機会がありました。1523年、近傍のクアアの司祭に着任したヨハネス・コマンダーは、教区民の生活に寄り添う牧会に注力すると同時に、ツヴィングリらと連絡をとりながら改革派の説教を語り、礼拝改革を推進したため、これを憎んだ司教や修道院長らが彼と同志の断罪へと圧力をかけてきました。しかし市参事会は神学討論を提案、1526年1月8日、イランツで討論会が開かれたのです。討論会のためにコマンダーが起草した18項の論題が残されています。その第1項は次の通り。「キリスト教会は神の言葉から生まれる。キリスト教会は神の言葉にとどまるべきであり、神の言葉以外のいかなる声にも聴き従ってはならない」。18論題は2年後のベルン論題へと結実していったとされます。私は、遙か400年後のバルメン宣言第1項にもその反響がこだましているように思われて、ちよつぱり興奮しました。(小林)

# 福音と世界

2017年  
10

A5判・80頁・定価635円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8460円

特集・かざるいのちの神学

聖書と飾り

池田 裕

裸体・着衣とセクシュアリティ

近代日本

におけるキリスト教の影響

三橋順子

教会では何を着る? サンデー・ベストと  
かぶりもの

八木谷涼子

からだに彫る祈り——タトゥーとキリスト教  
の接点をさぐる

編集部

聖書の世界の「かざる」を味わう

編集部

聖書に侵入したヨブ記

長尾 優

ロシア革命の百年後に

福岡 揚

書評 栗林輝夫『日本で神学する』

有住 航

【連載より】

はじめての台湾キリスト教史 7……高井ヘラー由紀

望月麻生

みことば散歩 10

板垣雄三

聖書とわたし 20

吉松 純

アメリカの神学と教会のいま 12 (最終回)

岩名定道

現代神学の冒険 13

辻 学

新約釈義 第一テーマ書 20

内田 樹

レヴィナスの時間論 31

佐藤 優

ことばの履歴書 43

佐藤 優